

平成 20 年度突風等短時間予測情報利活用検討会

(第 2 回)

日時：平成 20 年 11 月 25 日（火）

13 時 30 分～15 時 30 分

場所：気象庁大会議室

議事次第

1 . 開 会

2 . 議 事

(1) ガイドライン（案）について

(2) 雷短時間予測について

(3) その他

3 . 閉 会

突風等短時間予測情報利活用検討会

開催趣旨

気象庁では、雨と風の動きを3次元で連続的に監視できる気象ドップラーレーダーの整備や、数値予報モデルの精緻化を進めるとともに、竜巻等の突風や短時間強雨、雷（以下、これらを「突風等」と言う。）など、非常に激しい現象に対する監視・予測の技術開発を進めてきました。平成20年3月からは、身の安全を確保することを目的とした新たな気象情報「竜巻注意情報」の発表を開始しました。更に、平成22年度からは、竜巻等の突風や短時間強雨、雷の危険度を格子点形式として表す「突風等短時間予測情報（仮称）」を提供できるよう、準備を進めているところです。

この「突風等短時間予測情報（仮称）」は、発現時間が短く、空間的にも極めて小規模で、非常に激しい現象を対象としていることから、現在の科学技術を最大限に活かしても、すべてを捕らえられるわけではありません。このような情報を有効に活用し、防災・減災の効果を挙げるためには、情報の内容や留意事項等について、利用者に十分理解してもらう必要があります。

これに対処するため、気象庁では、平成19年度に引き続き、学識経験者、地方公共団体、報道機関等による『突風等短時間予測情報利活用検討会』を開催し、利用上の留意点や利用例等を整理して、必要な周知・広報策について検討を行うこととしました。

検討内容

突風等の危険度を格子点形式として表す「突風等短時間予測情報（仮称）」を平成22年度から提供開始することについて、防災を踏まえた適切な活用がなされるよう、次のことを検討します。

予測情報の「竜巻等突風」について、利用方法や留意点の基本的な考え方を整理し、「竜巻注意情報」と組み合わせた利用や特定目的の事業者による利用例、一般向け解説、周知・広報の方法等について検討を行います。検討結果は、ガイドラインとしてまとめ、今年度末に公表する予定です。予測情報の「雷」について、開発の状況を示しながら、防災に係る情報としての利活用について検討します。

平成 20 年度 突風等短時間予測情報利活用検討会 委員等名簿

座 長

たなか あつし
田中 淳 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター センター長
(日本災害情報学会 企画委員会委員長)

委 員

きむら たくるう
委員 木村 拓郎 (株)社会安全研究所 所長
(日本災害情報学会 理事)

ごとう こういち
委員 後藤 厚一 宮崎県 総務部危機管理局長

たかはし たみお
委員 高橋 民夫 文化放送 編成局報道制作部 防災キャスター

たけい なおき
委員 竹井 直樹 社団法人 日本損害保険協会 業務企画部長 (理事待遇)

たむら ゆきお
委員 田村 幸雄 東京工芸大学 風工学研究センター センター長
(国際風工学会 IAWE 会長)

にいの ひろし
委員 新野 宏 東京大学海洋研究所 教授
(日本気象学会 理事長)

みやした なおと
委員 宮下 直人 東日本旅客鉄道株式会社 執行役員 鉄道事業本部安全対策部長
(鉄道気象連絡会 副会長)

やなぎはし けん
委員 柳 橋 健 東京電力株式会社 執行役員 電力流通本部系統運用部長
(電力気象連絡会 会長)

やまざき のぼる
委員 山崎 登 日本放送協会 解説委員会 解説主幹

敬称略 五十音順

政府行政機関

たじり なおと
田尻 直人 内閣府 参事官 (災害予防担当)

いいじま よしお
飯島 義雄 総務省消防庁 国民保護・防災部 防災課長

あんどう のぼる
安藤 昇 国土交通省総合政策局 技術安全課長

ほそみ ゆたか
細見 寛 国土交通省河川局 防災課長